

情報提供日	平成 30 年（2018 年）5 月 2 日（水）
問い合わせ先	広島市植物公園 管理課 泉川、高井 栽培・展示課 佐藤、木原 TEL 082-922-3600

変な名前の木！？珍しい 「ナンジャモンジャ」が開花

広島市植物公園ではヒトツバタゴ（別名ナンジャモンジャ）が開花しています。今年は例年より 10 日ほど早く四月下旬に咲き始め、大型連休中が見頃になると思われます。



ヒトツバタゴの花。新枝の先に白い花をたくさんつける。

ヒトツバタゴ (*Chionanthus retusus*) モクセイ科

別名：ナンジャモンジャ

分布：本州（長野、岐阜、愛知）、九州（長崎県対馬）、朝鮮半島、中国、台湾

樹形：落葉高木。高さ 30m、幹径 70cm に達する。（※当園の株は雄株で、高さ 6～7m 程度）

用途：公園樹などとして植えられることがある。

解説：本種の別名は、本州中部の木曾川流域と対馬に自生し、それ以外ではあまり目にすることがなく、何の木かわからないことが多いので、「ナンジャモンジャ」と呼ばれたことに由来します。バットの材料として知られるアオダモの仲間で、雌雄異株の落葉高木です。毎年5月上旬頃、小さな白い花が木いっぱい開花します。学名の *Chionanthus* は「雪の花」という意味で、対馬では山の斜面が真っ白になるほど一面に咲いた花が海を照らす様子から、地元では「ウミテラシ」とも呼ばれます。

開園時間 午前9時から午後4時半まで（ただし、入園は午後4時まで）
入園料 大人510円、65歳以上・高校生170円、中学生以下無料
休園日 毎週金曜日